



国際子ども図書館 学校図書館セット貸出し オセアニア・南極・北極セット 中学校向 内容紹介

このセットに含まれる本の内容紹介です。

学校での本の紹介や展示、学校図書館での選書などにご利用下さい。

※外国語の本にある日本語タイトルは参考訳です。

1. 新・世界の国々 8 (オセアニア州・南極)

帝国書院編集部 編集

帝国書院 2020 年

世界各地の地理・歴史・産業・文化等を詳しく解説する全 10 巻のシリーズ。8 巻では、オーストラリアやニュージーランドの他、ミクロネシア・メラネシア・ポリネシアの国々を取り上げる。南極はコラムで紹介する。巻末索引あり。

2. DOOR : 208 の国と地域がわかる国際理解地図 5 (南アメリカ・オセアニア)

地図情報センター 2019 年

カラフルなイラスト地図で各国への理解を促すシリーズ。人口などの基本データや国旗、国際オリンピック委員会が定めた略称、挨拶の言葉などを紹介。多様なイラストと地図でその国の概要を掴むことができる。5 巻では、オセアニアの国々と北極、南極地域を掲載する。巻末に索引あり。

3. 写真で学ぶ世界遺産 2 (南北アメリカ・オセアニア)

平川陽一 編著

汐文社 2015 年

文化遺産、自然遺産など、ユネスコの世界遺産を豊富なカラー写真で紹介するシリーズ。オーストラリアのウルル-カタ・ジュタ国立公園、ニュージーランドのテ・ワヒポウナム-南西ニュージーランドなどの 2014 年までに登録された遺跡・景観・自然を掲載し、分かりやすい解説を付す。巻末にオセアニアエリアの世界遺産一覧表・用語解説集あり。

4. もっと知りたい！オーストラリア

在日オーストラリア大使館広報文化部 2015 年

オーストラリアの地理、歴史をはじめとして、学校生活、日本とオーストラリアの関係などをテーマ別に掲載する。在日オーストラリア大使館が、日本の学校から寄せられた質問に答えるために作成したもので、今まで知らなかったオーストラリアについて、楽しく学べる構成になっている。

5. オーストラリア (ナショナルジオグラフィック世界の国)

ケイト・ターナー 著, エレイン・ストラットフォード, ジョセフ・M.パウエル 監修

ほるぷ出版 2008 年

オーストラリアに関する主要なテーマを取り上げ、コンパクトに解説する。写真や地図が効果的に使われ、文章も分かりやすい。生きた化石「カモノハシ」といったオーストラリア固有の生物や地理、自然の説明はもちろん、イギリスの流刑植民地として出発した国の歴史、現在の文化や政治も紹介されている。巻末にミニ情報や年表、用語解説、索引あり。

6. ニュージーランド（ナショナルジオグラフィック世界の国）

バーバラ・ジャクソン 著, ヴォーン・ウッド, サイモン・ミルン 監修
ほるぷ出版 2010 年

ニュージーランドを地理・自然・歴史・文化・政治・経済という視点から写真やイラストを使い解説する。本文ではラグビーが人気で選手はマオリ人も多いとスポーツの話題を挙げ、コラムでは映画「ロード・オブ・ザ・リング」のロケ地となったことを紹介し、他にもテーマ別地図を付すなど、生徒の興味を引くように工夫されている。ミニ情報や年表・索引あり。

7. ニュージーランド today

ニュージーランド学会 編
春風社 2019 年

現代のニュージーランドをさまざまな観点から紹介する本。自然・政治・スポーツと文芸など 12 の分野から 98 のトピックを解説する。巻末に資料一覧「もっとニュージーランドを知るために」あり。

8. ニュージーランド（体験取材！世界の国ぐに 9）

岡崎務 文・写真
ポプラ社 2006 年

ニュージーランドの国と生活をわかりやすくまとめた本。火山や氷河が広がる雄大な自然、マオリの文化、羊や牛と大地の恵みを受けた産業、スポーツ、都会と地方の暮らしなど、豊富な写真とともに紹介する。読書教育が盛んで、学校によっては、校長先生が指導する読書の時間がある。国の歴史や日本との交流史も掲載。巻末にデータ・索引あり。

9. ミクロネシア連邦（体験取材！世界の国ぐに 10）

岡崎務 文・写真, 在日ミクロネシア連邦大使館 監修
ポプラ社 2006 年

太平洋に浮かぶ 600 以上の島々、ミクロネシア連邦を豊富な写真で伝える。4 つの州が一緒になった連邦国で州ごとに言葉や文化が違う。各州とも小学校は 8 年間の義務教育で、共通語として英語を学ぶ。パンノキの実で作るモチとドーナツが並ぶ店頭、石のお金（石貨）とアメリカドル紙幣、伝統農業によるタロイモ・ヤマイモの栽培と、農薬や人口肥料を使うナスの栽培など、この国では伝統と現代が交差している。巻末に歴史と基本データ、索引あり。

10. 消えゆく太平洋戦争の戦跡

「消えゆく太平洋戦争の戦跡」編集委員会
山川出版社 2017 年

太平洋の島嶼部などの戦跡をカラー写真で紹介。その戦場やそこで起きた戦闘について解説し、戦後から現在までその地が歩んだ歴史も紹介している。巻頭に太平洋戦争の戦場を示す地図、巻末に写真提供者一覧あり。

11. アボリジニ（写真で知る世界の少数民族・先住民）

ダイアナ・マルシェル 著, 藤村奈緒美 訳
汐文社 2008 年

アボリジニとは、オーストラリアに 5 万年前から住んでいた民族である。彼らは、ブーメランで狩りをし、大地は祖先の精霊と繋がり、自分たちを自然の一部と考えている。この本では、先住民の中で伝統的な生活をする人々の生活を写真とわかりやすい言葉で説明する。

12. マオリ（写真で知る世界の少数民族・先住民族）

レスリー・シュトゥラドヴィク 著，斉藤慎子 訳
汐文社 2008 年

マオリとはニュージーランドの先住民である。彼らのマナ（威信）やタブ（英語のタブー）等の社会の掟をわかりやすく説明し、ハカ（おどり）や彫刻や民族衣装等の文化も紹介する。マオリ文化を守るための取り組みや現在の問題点にも触れる。彼らは「ほろびゆく民族」と呼ばれたが、1987年にマオリ語が英語とともにニュージーランドの公用語になった。

13. ワンロード：現代アボリジニ・アートの世界

窪田幸子 監修，窪田幸子，栗田梨津子，川崎和也，小倉裕介 訳
現代企画室 2016 年

2016 年に日本で開催された巡回展「ワンロード 現代アボリジニ・アートの世界」の図録。オーストラリア国立博物館に収蔵されたアボリジニアートイストたちの作品を通して、オーストラリアの開拓の歴史を、先住民であるアボリジニの視点から描く。

14. オールブラックス・プライド

齋藤龍太郎 著
東邦出版 2018 年

ラグビー競技の強豪チームであるニュージーランド代表「オールブラックス」。人気の高いチームの強さの裏側にあるもの、歴史的背景や文化との関係などを紹介する。

15. 元気が出る！世界の朝ごはん 4（オセアニアと南アメリカ）

服部幸應，服部津貴子 監修
日本図書センター 2007 年

朝ごはんを通じて世界の食文化と朝食の大切さを紹介するシリーズの 4 巻目。オーストラリア定番の朝食は「トーストにベジマイト」で、野菜エキスを発酵させたベジマイトをパンに塗って食べる。ニュージーランドからは野菜のキッシュ、サモアからはカカオポリッジが紹介されている。作り方も載っているので挑戦してほしい。シリーズの総索引あり。

16. オセアニア：海の人類大移動

印東道子，飯田卓 責任編集，国立民族学博物館 編
昭和堂 2007 年

国立民族学博物館が 2007 年に開催した「オセアニア大航海展」の解説書。星や太陽、波など自然を利用した伝統的な航海術や人類のアジアからのオセアニアへの移住、現代の人々の暮らしと移動などを紹介する。専門的な内容だが、木を削りカヌーを作っている様子や各種の船、装飾品などの写真からオセアニアの文化に触れて欲しい。

17. ビジュアル版近代日本移民の歴史 3（太平洋～南洋諸島・オーストラリア）

「近代日本移民の歴史」編集委員会 編
汐文社 2016 年

近代日本の移民の歴史を紹介するシリーズ。3 巻では、南洋諸島（現在のミクロネシア）やオーストラリアの日系移民について解説する。彼らは移民として渡ったそれぞれの場所で、日本国内での習慣を持ち込み生活するが、太平洋戦争の勃発により状況は変わりゆく。索引、年表、参考文献あり。

18. クックの航海

ピエロ・ベントゥーラ 絵, ジアン・パオロ・チェゼラーニ 文, 吉田悟郎 訳
評論社 1981 年

「キャプテン・クック」として知られる、18 世紀のイギリス人探検家クックの 3 度にわたる南半球航海記の大判絵本。最初の航海は、タヒチ島で金星を観測するのが目的だったが、これは表向きの理由で、イギリスは未知の大陸発見を期待していた。3 度の航海で新大陸は見つかったのか。最初に航海したエンデヴァ号の断面図やオーストラリアの動物、マオリの船などを緻密な絵で紹介する。見返しに航路図あり。

19. アライバル

ショーン・タン 著
河出書房新社 2011 年

オーストラリアのイラストレーター・作家であるショーン・タンが描く文字のないグラフィックノヴェル。様々な時代と地域の移民の経験談から着想を得て、不思議な生き物が存在する架空の世界を舞台に、故郷を離れ、新天地で生きる移民の姿を描く。

20. インコのぴのぴ：オカメインコ・セキセイインコのオーストラリア野生生活

岡本勇太 写真
文一総合出版 2018 年

大空をオカメインコやセキセイインコが飛び回る国オーストラリア。彼らが自然の中で生きる姿を写真で紹介する。一部の文章は日本語と英語が併記されている。

21. カモノハシの博物誌：ふしぎな哺乳類の進化と発見の物語

浅原正和 著
技術評論社 2020 年

オーストラリアにのみ生息するカモノハシは、発見当時は不思議な動物扱いだった。生物としてのカモノハシの姿から、進化・発見の歴史、保護活動まで、カモノハシの魅力に取りつかれた著者がとことん追求した、カモノハシについての専門知識が満載の一冊。第五章では、著者自身がカモノハシ研究者となった道のりも紹介されている。

22. パプアニューギニア海の起源をめぐる旅

中村卓哉 写真・文
雷鳥社 2016 年

パプアニューギニア・ダイビングアンバサダーでもあり、水中写真家でもある著者が、オセアニアに属するパプアニューギニアの海の魅力をエリア別に紹介する。いろとりどりのサンゴや鮮やかな魚たちの群れなど、海のロマンと美しさを伝える写真集。

23. オールド・ブルー：世界に 1 羽の母鳥

メアリ・テイラー 作, 百々佑利子 訳
さ・え・ら書房 1999 年

ニュージーランド本島から東に 1000 キロのチャタム諸島に、世界でここだけに生息する黒い小鳥ブラックロビンがいた。この絵本は、絶滅の危機にさらされ、ブルーと名づけられたブラックロビンの母鳥とひなを救うために力を尽くした人々の記録である。絵は緻密で、落ち着いた色彩が美しい。1970 年代にブルーを含め 7 羽しかいなかったロビンは、100 羽まで増えた。

24. 旅先での南天星空ガイド：南天のロマン南十字を探す

飯塚礼子 著

恒星社厚生閣 2016 年

日本からは見えない南半球の星空を紹介する。南半球での星の探し方、南天の星座が生まれた経緯、緯度による星の見え方、写真の撮り方から成る。

25. 北極・南極探検の歴史：極限の世界を体感する 19 のアクティビティ

Maxine Snowden 著, 石沢賢二 監訳, 鈴木理 訳

丸善出版 2016 年

北極と南極の探検の歴史を紹介する本。探検家たちが残した日誌や写真を詳しく分析することによって、多くの探検家が何度もチャレンジを繰り返しながら少しずつ進んでいったことがわかる。極寒の世界での生活や研究を体験できる 19 のアクティビティ「ためしてみよう！」のコーナーを実際にやってみるのもよいだろう。参考文献・索引あり。

26. 南極建築 1957-2016

LIXIL 出版 2016 年

南極にある昭和基地の建築の歴史を紹介する。1957 年の昭和基地開設時から、極寒の地でより効率的な南極生活をおくるために、どのような改良がおこなわれてきたのかを知ることができる。世界の国ぐにの南極基地の情報もあり。

27. 南極のさかな大図鑑：たくさんのふしぎ版

岩見哲夫 文, 廣野研一 絵

福音館書店 2020 年

南極の海に生息する魚たちの図鑑。写真ではなく緻密なタッチの絵で紹介されている。世界一冷たい海に適応した魚の生態について知ることができる。

28. 新しい、美しいペンギン図鑑

テュイ・ド・ロイ ほか著, 上田一生 監修・解説, 裏地良子 ほか訳

エクスナレッジ 2014 年

ペンギンの生態を豊富な写真とともに紹介した図鑑。16 人の専門家による研究成果も紹介している。

29. やまとゆきはら：大和雪原：白瀬南極探検隊

関屋敏隆 さく

福音館書店 2002 年

百年前の明治時代に南極観測船「開南丸」^{かいなんまる}で出発した白瀬^{のぶ}ら南極探検隊の足跡を描いた絵本。29 頭の犬が半年の航海で 1 頭になったことや、厳寒の南極大陸を犬ぞりで進む様子など、当時の航海と南極観測の壮絶さが表れている。布地版画で描かれた輪郭のはっきりした絵は、力強く大和雪原を描き出す。帰国後の白瀬や隊員らの様子も紹介されている。あとがきと解説、参考文献もあり。

30. 極地絶景：緯度別に見る北極パノラマ

クント・フェアラーク 編, 青木柊 訳

グラフィック社 2020 年

北極点から北緯 60 度までを写真で紹介する本。それぞれの地に存在する動物、植物を中心に、自然の雄大な姿が映し出されている。雪や氷ばかりではない北極圏の姿を見ることができる。巻末に索引あり。

31. こんちき号北極探検記：ホッキョクグマを求めて 3000 キロ

あべ弘士 著
講談社 2012 年

動物園の飼育係だった著者が、ヨットのこんちき号で北極を旅した記録をまとめた本。北極という氷の地を思い浮かべがちだが、著者はシロクマ、アザラシ、セイウチなど、元飼育員の視点から見た北極の動物たちを、生態や特徴をとらえて、色鉛筆で鮮やかに描いていく。

32. ポリネシア・メラネシアのむかし話：海の少女ヒナほか

ダイクストラ好子 編訳
偕成社 2000 年

西太平洋のポリネシアの島々とオーストラリア北東のメラネシアの島々に伝わる 16 編のお話を収載した昔話集。島なので海にまつわる話が多い。また、食べ物や風習の描写からは、南の島の生活や道徳などが読み取れる。現在のソロモン諸島の『海の始まり』は現地の言葉を使った描写もあり、3 分ほどの短い話なので、授業の導入に使うこともできる。

33. Herbert : the brave sea dog (英語) ハーバート：勇敢な海の犬

Robyn Belton
Molly Paul Books 2008 年

この絵本は、事実を元に作られている。小さな犬ハーバートは、飼い主の男の子ティムの父親と一緒に船に乗ったが、途中で嵐に遭い、ハーバートは船から落ちた。翌日、ティムは父親に頼み、漁師と共にハーバートを探し出す。嵐の海を泳ぎ続けたハーバートは、勇敢な犬としてメダルを受賞した。ラジオでこの話が流れると、ニュージーランド中で話題になった。表紙裏には、ティムや全国から感動の手紙の写真が掲載されている。

34. Imagine (英語)

Alison Lester
Allen & Unwin 2007 年

35. どうぶつがいっぱい!

アリソン・レスター 作；岡部史 訳
河合楽器製作所・出版事業部 1995 年

「もしここがジャングルだったら」と想像すると、次ページにジャングルとそこに住む動物が描かれている楽しい絵本。200 種類以上の動物が細かく描かれており、余白に描かれた動物の名前が出ているので、探すのも楽しい。森のページでは、オセアニアの動物が登場する。作者は、オーストラリア南東部の農場で生まれ、動物に囲まれて育つ。25 冊もの絵本を出版し、本書をはじめ、各国語に訳され世界中で読まれている。

36. Kiwi moon (英語) キウィ・ムーン

Gavin Bishop
Random House New Zealand 2008 年

月をお母さんだと思った白いキウィの子は、山火事の時に月に助けられ空へ行く。月が疲れたときに代わりに満月 (Kiwi moon) になった。白いキウィと月の幻想的な絵の一部に、入植当時のニュージーランドの先住民の暮らしや入植者との戦いも描かれている。2006 年にラッセル・クラーク賞 (ニュージーランドの絵本賞) を受賞。

37. My brown bear Barney (英語)

Dorothy Butler, illustrated by Elizabeth Fuller
Reed Children's Books 1994 年

38. わたしのバーニーいつもいっしょ

ドロシー・バトラー さく, エリザベス・フラー え, ももゆりこ やく
のら書店 1997 年

クマのぬいぐるみのバーニーといつも一緒にいる小さな女の子の日常が描かれる。ぬいぐるみの質感まで伝わる温かみのある絵からは、ニュージーランドの一般家庭の様子もわかる。作者のドロシー・バトラーは、ニュージーランドの児童文学者。児童書専門店を開き、母親を対象とした読書教育を行う。重度障害をもつ孫娘と絵本の関わりを書いた『クシュラの奇跡』は、エリナー・ファージョン賞（1980 年度）を受賞。

39. Bush Babies (英語) ブッシュ・ベイビーズ

Kim Dale
Thomas C. Lothian Pty Ltd 2003 年

オーストラリアに住む野生動物の赤ちゃんを紹介した知識絵本。コアラやエミューなど、オーストラリア特有の動物 15 種類を取り上げる。各頁に動物をイメージした英語詩が付いている。精密な絵で、折り込みページになっているので、ヒントを出して、動物当てクイズをしても面白いだろう。巻末に、動物の説明付。2004 年オーストラリア児童図書賞ノンフィクション部門ショートリスト選出。

40. Lizzie Nonsense (英語)

Jan Ormerod
Little Hare 2004 年

41. ゆめみるリジー

ジャン・オーメロッド 作・絵, はやかわゆか 訳
アールアイシー出版 2007 年

オーストラリア開拓時代の家族の生活を描いた創作絵本。森の奥の小さな家に住んでいる女の子リジーは、お父さんが仕事でいない間、お母さんと赤ちゃんの 3 人で暮らしている。夢見がちなリジーに、お母さんはあきれ顔。暖かみのある色彩で、森での生活をやさしく描く。2006 年国際児童図書評議会オナーリスト作品。

42. Possum and wattle : my big book of Australian words (英語)

ポッサムとワトル：オーストラリアの言葉の本

Bronwyn Bancroft
Little Hare 2008 年

オーストラリア特有の動物や伝統的な道具など表す言葉を、先住民（アボリジニ）の中でも聖地を守るバンジャラン族の画家の絵とともに紹介した絵本。言葉の多くは bat（コウモリ）など英語だが、boomerangs（ブーメラン）などアボリジニに由来する言葉も含まれている。黒いはっきりした輪郭と点や丸で描かれた色鮮やかな絵は力強く、全ての物に精霊が宿ると考えるアボリジニの文化を感じることができる。

43. The Shack that Dad Built (英語) 父さんが建てたブリキ小屋*

Elaine Russell

Little Hare Books 2004 年

1940 年代半ば、アボリジニである著者エレインが 5 歳の時、彼女と家族は、アボリジニ定住区を避けて、シドニー近郊の浜辺ラペルーズへ引っ越した。父親は、浜辺の横にゴミ捨て場から拾ってきたブリキで小屋を作り、家族はそこで 5 年間を過ごした。色鮮やかな絵は、当時のオーストラリア西部に住むアボリジニたちの様子をよく伝える。

44. Snake and Lizard (英語)

Joy Cowley, Gavin Bishop

Gecko Press 2007 年

45. ヘビとトカゲきょうからともだち

ジョイ・カウリー 作, ガヴィン・ビショップ 絵, もりうちすみこ 訳

アリス館 2011 年

おだやかな性格のヘビと元気一杯なトカゲが、ケンカをしながらも互いの違いを理解し、友情を育んでゆく物語。Joy Cowley はニュージーランドの女性作家で、絵本も描く。登場人物の性格まで分かるような魅力的な挿絵も楽しい。一話一話は短いので英語での読み聞かせに挑戦してもよいだろう。2008 年ニュージーランド・ポスト児童図書部門年間最優秀賞作品。

国立国会図書館 国際子ども図書館
児童サービス課 児童サービス企画係
URL : <https://www.kodomo.go.jp/>